

授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：天文台で学ぶ科学コミュニケーション ILAS Seminar :Science-Communication Learning at Kwasan Observatory			担当者所属 職名・氏名	理学研究科 准教授 野上 大作 理学研究科 准教授 浅井 歩 理学研究科 講師 常見 俊直		
群	少人数群	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール
開講年度・ 開講期	2016・ 前期集中	受講定員 (1回生定員)	8(8)人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	集中 未定	教室	花山天文台(北部構内)			使用言語	日本語
キーワード	科学コミュニケーション / 天文学 / 宇宙						
[授業の概要・目的]							
<p>テーマ：天文学を題材とした科学コミュニケーション</p> <p>大学は最先端の研究を行って人類の知の地平線を広げていくとともに、大学生・大学院生に対して研究に基づいた教育を行い、社会の、あるいは研究の次世代を担っていく人材を養成する場である。さらに現在では、学問の裾野を広げ、研究成果を広く世に還元するための「科学コミュニケーション」を行うことが、社会的な強い要請としてある。</p> <p>理学研究科の附属花山天文台では、一般公開、観望会、出前授業などを通じて広く市民・青少年に天文学についてのアウトリーチ活動を行っている。花山天文台の歴史ある望遠鏡を用いて、「天体観測を体感する」、「美しい天体を楽しむ」、「広大な宇宙の歴史を知る」という市民に対する知の発信や、「天体を科学的に観測する」という青少年に対する教育活動を行っている。この活動を通じて培った科学コミュニケーションのノウハウを、短期集中ゼミナールにおいて習得することを目的とする。</p> <p>本授業は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」(京都学教育プログラム)における「いきよし」として開講されるものである。</p>							
[到達目標]							
宇宙・天文学に関する基本的な講義や観測実習、アウトリーチ活動の実践を通して、宇宙科学コミュニケーション力を高める。実際の科学コミュニケーション活動の企画、運営、実行、問題抽出、フィードバックの一通りを経験し、将来の円滑な科学コミュニケーション活動の基礎を固めることを目標とする。							
[授業計画と内容]							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 太陽物理学の概要講義 2. 日本最大の70cmシーロスタット望遠鏡で太陽分光観測の実習 3. ザートリウス屈折望遠鏡を用いて太陽彩層での爆発現象の観測実習 4. 45cm屈折望遠鏡を用いて惑星の観測実習 5. 4Dシアターを利用した宇宙全貌の解説トレーニング 6. 科学コミュニケーションの成果をアンケート調査・解析により問題点解明、フィードバック法策定の立案演習 7. 花山天文台の一般公開・観望会、小中学校などへの出前授業、あるいは講演会での科学コミュニケーション活動の実践 <p>これらのことを、夏季休業期間中に集中的に行う。</p>							
ILASセミナー：天文台で学ぶ科学コミュニケーション(2)へ続く							

ILASセミナー : 天文台で学ぶ科学コミュニケーション(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

花山天文台の一般公開・観望会、小中学校などへの出前授業、あるいは講演会での科学コミュニケーション活動の実践において、身についた科学コミュニケーション能力を総合的に評価する。

【教科書】

講義・実習において必要なプリントは適宜配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

それぞれの講義や実習内容についての復習とともに、可能な範囲での科学コミュニケーション活動の継続を期待する。

【その他(オフィスアワー等)】

今年度は9月26日(月)から30日(金)の5日間での実施を予定している。観測実習では夜間の作業などもあるので、学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険への加入して下さい。花山天文台等への交通費は受講生負担。通常の成績報告の時期に間に合わない可能性がある。